

頭

頭のとっぺんにひし形のすき間があり、触ると柔らかくてペコペコしています。これを「大泉門^{だいせんもん}」といいます。大泉門は1歳から1歳半くらいで閉じます。

病気のときにふくらんだりへこんだりすることがあります。普段さわった感じをおぼえておくようにしましょう。

おなかの中にいるときから音や声は聞こえているので、聞きなれたお母さん、お父さんの声が聞こえるととても安心します。赤ちゃんの耳の聞こえは「家庭でできる耳の聞こえと言葉の発達のチェックリスト」で月齢にあわせて確認してみましょう。

耳

鼻

生後間もなくからお母さんのおっぱいのおいを覚えてかき分けすることができます。たくさん抱っこしてくれるひとのおいも大好きになります。

手

手を握っていることが多い赤ちゃん。少し成長すると手を開くようになってきます。自分の顔や口にふれながら感覚を学んでいきます。なるべくミトンなどでおおわないようにしましょう。

口

おっぱいを吸うように口を動かしたり、おっぱいを吸うときのような音を立てていたら「おなかはずいたサイン」です。
ほっぺの内側に白いカビがつくことがあります。注意して観察しましょう。

首

赤ちゃんの首はグラグラしています。抱っこときはしっかり首の後ろを支えてあげて。
首にしこりをみつけたり、くびれがジクジクしていたり、気になることは小児科で相談しましょう。

目

視力は0.02くらい。25~30cmくらい離れたあたりがぼんやりと見える程度で、ちょうど抱っこをしたお母さんの顔のあるところが一番よく見えます。
赤ちゃんは、お母さんの顔が大好き。しっかり目を合わせてお話ししながら授乳しましょう。

肌

新陳代謝が激しいので、丁寧なスキンケアが大切です。
生後2~3日ごろから、黄疸^{おうだん}のために肌が黄色みをおびてくる場合があります。
気になるあざやブツブツは健診のときに小児科で相談しましょう。

おしり

一日に何回もおしっこやうんちをします。かぶれやすいので、こまめにおむつを取り替えましょう。
ベビーパウダーはこびりつくのでおすすめしません。

脚・股

赤ちゃんは腕や脚を曲げているのが自然な姿勢です。無理に伸ばしたりひっぱったりしないようにしましょう。
股関節脱臼をおこさせないため、抱っこやスリングを使うときにはしっかり股を開くようにしましょう。

おへそ

お風呂の後は、綿棒などでやさしく中まで拭いて水分を取ってあげて。乾いたら消毒は必要ありません。
おへそがぶくんとふくらんで見えたり、赤くなったりジクジクするときは、小児科で相談しましょう。

はじめまして

知って安心！生まれたての赤ちゃん

はじめての赤ちゃんのお世話は、ドキドキしますよね。
でも、赤ちゃんの特徴をよく観察すると、お世話のポイントもわかってきますよ。